

八重山の戦争マラリア

斉藤 美加 琉球大学医学研究科 教員/獣医学博士

八重山は沖縄県の南西端に位置し、石垣島、西表島、与那国島などの12有人島および約20の無人島からなる地域である。古くからこの地域は「ヤキーヌシマ」と呼ばれてきた。

「ヤキー」とは「焼けるような熱」、すなわちマラリアを意味し、「マラリアの島」として恐れられていたのである。八重山に行けば病に倒れて帰れないという認識は、恐怖とともに侮蔑の意味合いも含んでいたとされる。

一説によれば、16世紀頃に原因不明の病「ヤキー」が持ち込まれ、長きにわたり人々を苦しめ、地域開発の大きな障壁となってきた。さらに琉球王国時代の過重な人頭税、沖縄戦、戦後の米軍統治といった経済的・社会的・政治的困難の中で、八重山の人々は常にマラリアとの闘いを強いられてきた。

マラリアはマラリア原虫という寄生虫を病原体とし、蚊によって媒介される感染症である。発症初期には高熱、頭痛、悪寒など風邪様の症状を呈するが、進行すると貧血や腎不全、脳症などの重篤な合併症を引き起こし、死に至ることもある。人に感染するマラリア原虫は5種類存在し、八重山では熱帯熱、三日熱、四日熱、卵形マラリアの4種が確認されていた。特に熱帯熱マラリアは重症化しやすく、治療が遅れれば致命的となる。

太平洋戦争末期、沖縄島では激しい地上戦により約20万人が命を落とした。一方、八重山では地上戦は行われなかったにもかかわらず、住民の約半数にあたる16,887人がマラリアに罹患し、3,647人（約1割）が死亡した。この背景には、日本軍による住民の強制避難があった。日本軍はマラリアの有病地と無病地の分布を把握していながら、軍命により住民を山間部のマラリア有病地であるジャングルへ強制的に避難させたのである。

この結果、戦闘による死者が178人であったのに対し、その約20倍にあたる人々が感染症によって命を落とした。この悲劇は通常のマラリア流行とは区別され、「戦争マラリア」と呼ばれている。

住民がジャングルへ強制避難させられた理由としては、主に三点が指摘されている。第一に、軍の食糧確保、第二に無病地の居住空間の確保、第三に住民を監視下に置くためである。これらの事情は島や避難地によって異なるが、軍命に抗うことはできなかった。その中でも、波照間島では罹患率99.8%、致死率30.1%という極めて深刻な状況が生じており、この出来事は「もう一つの沖縄戦」とも称される。

避難先では、村や隣組単位で建てられた茅葺きの小屋に20~30人が密集して生活し、一世帯に与えられた空間はわずか四畳程度であった。避難から約2週間後にマラリアの流行が

始まり、住民は避難前に配給されたわずかな米と、芋や野草、さらには蛇や亀などの野生動物で補い、極限状態での生活を強いられた。

また、避難地の溪流は熱帯熱マラリアの媒介蚊ヤエヤマコガタハマダラカの発生源であり、茅葺きの構造は蚊の侵入を防ぐことができなかった。その結果、蚊に刺される頻度が増加し、感染リスクが著しく高まった。さらに、医薬品の圧倒的不足、栄養状態の悪化、過酷な労働による免疫力の低下に加え、公助、互助の助け合いの社会的基盤の弱体化も重なり、致死率は極めて高くなった。彼らにできることは、ヨモギを燻して蚊遣とし、ヨモギやニガナの搾り汁を飲むという自助のみだった。

しかし、このような極限状況においても、八重山の医師たちは活動を続けていた。特筆すべきは、戦時下にもかかわらず、地域別・性別・年齢別の患者数や死亡数、さらには原虫種に至る信頼度の高い詳細な統計データが記録されている点である。この組織的なデータ収集を主導したのが、八重山出身の医師であり博士、のちの八重山群島知事となる吉野高善であった。吉野は科学的視点に基づき、データを組織として集め、混乱の中でも客観的な記録の重要性を貫いた。また、日本軍に対してデータをもとにキニーネの提供を求めたが、その要請は受け入れられなかったが、戦後米軍の食糧や抗マラリア薬の供与を引き出すことができた。戦争マラリアに関する八重山の科学的データは他に類をみない貴重なものである。

重要なのは、八重山の「戦争マラリア」が人為的なものであり、「避け得た惨劇」であった点である。住民をマラリア有病地へ強制的に避難などさせなければ、このような大規模な被害は生じなかった可能性が非常に高い。

戦後、住民、行政、科学者が一体となって徹底した対策が進められた結果、1962年、八重山におけるマラリアはついに「ゼロ」を達成した。この過程は、戦争による破壊からの再生の歴史であると同時に、科学と社会の協働の重要性を示している。科学に基づく正しい現状把握と、それに基づく責任ある意思決定を欠き、短期的な対応や都合のよい判断に依存するとき、社会は再び「避け得た惨劇」を自ら生み出すことになる。

先人たちの多くの努力の恩恵を受け、今、石垣では子どもたちも観光客も安全に山の中で遊ぶことができる。過去の犠牲と克服の歴史を忘れてしまわないよう、この動画が未来へとつなぐものになることを祈っている。

###

*本資料の無断転載・配布はご遠慮ください。